

『間伐再考 ～あらためて、間伐を見つめてみよう～』

岐阜県森林研究所 研究成果発表会

(岐阜県山林協会共催)

日時 平成19年7月24日(火)

13:00~16:00

場所 中濃総合庁舎 5階 大会議室

美濃市生櫛1612-2

標準伐期に達した人工林が、増えつつあります。しかし、その多くは主伐が控えられ、人工林の高齢化が進みつつあるのが現状です。これに伴い、長期にわたり森林を育てるため、また、中間収入を得るため、これまでも増して間伐が重要になってきています。

今回の研究成果発表会では、これからの間伐について、最近の研究成果や情報を紹介しながら考えてみたいと思います。

1. あいさつ

2. 成果発表

(1) 間伐作業の機械化とコストから間伐を見る 「作業効率とコスト」……………古川邦明

間伐作業の低コスト化の必要性が言われています。実現のための手段として機械化がありますが、果たして、機械導入が低コスト化につながるのか。これまでに、調査した作業システムの解析結果から、間伐のコストについて考えてみます。

(2) 収穫から間伐を見る 「今は良くて、その後が…」……………大洞智宏

間伐の遅れた林では、収入を得るため、太く形質の良い木から伐採する場合があります。その結果として、林にはヒヨロヒヨロの木しか残っていないことがあります。残されたヒヨロヒヨロの木に、今後の成長を期待して良いのでしょうか？成長の予測、過去の研究事例などから予想されるヒヨロヒヨロな木の未来を紹介します。

(3) 炭素貯留から間伐を見る 「間伐で炭素貯留量は増える？」……………渡邊仁志

炭素吸収源としての森林の役割が注目されています。このため、間伐などの人工林経営には、森林の炭素吸収能力を高める効果も期待されています。ここでは、スギ人工林における間伐後の成長シミュレーションから、森林の炭素貯留量の変化、間伐にあたり考えなければならないことを発表します。

(4) 虫害から間伐を見る 「巻き枯らし間伐って大丈夫？」……………大橋章博

新しい？間伐法として注目されている「巻き枯らし」。この方法は、安全で簡単に実施できるだけでなく、過密林で間伐する際に風雪害を低減できるという長所があると言われています。しかし、一方で、病虫害が増えるといった危険性も指摘されています。そこで、森林保護の立場から、巻き枯らしについて考えてみようと思います。

(5) 気象害から間伐を見る 「伐らなくても危ない、伐りすぎても危ない？」……横井秀一

最近、スギ林を主に、冠雪害が目につきます。間伐が遅れ、森林が脆弱になっていることに一因があると考えられます。だからといって、間伐さえすれば、直ちにこの脆弱性が是正されるわけではありません。間伐のしかたを誤ると、かえって危険になることもあります。雪害・風害から、間伐を考えてみます。

3. 質疑応答および討論